

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 神学部の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化（2012年度入試実施までに）	C
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度（一般、AO、推薦入学など）で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示（2012年度入試実施までに）	C
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会（学部）における検証および教授会に対する報告書の作成（2012年度入試より）	C
4. ことにAO入試においては、2004年度（2003年度実施）の入試制度導入から10年を迎える2013年度に向けて、これまでの検証とその選抜方法の再考を行う。	→AO入試実行小委員会および既存の入試検討委員会における検証および教授会に対する報告書の作成（2013年度までに）	C
5. 学内ジョイント・ディグリー制度を利用した4年次編入学生の受け入れを実施する。	→神学部に規の改正施行および関連規定の整備状況（2013年度までに）	C
6. 入学前教育のさらなる充実を図る。	→入学前教育の実施状況および入試検討委員会（学部）での恒常的な検証体制の整備状況（2011年度入試より）	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目5.0.1	(方針) [明文化に至っていない] (現状説明) すでに一般入試のアドミッション・ポリシー、あるいはAO入試の入学像について一定のものが定まっているが、全体のアドミッション・ポリシーは明文化のため検討中である。ただ順序としては、まずディプロマ・ポリシーを定め、カリキュラム・ポリシーを定めた上でアドミッション・ポリシーの策定に進むべきと考えている。																
★	小項目5.0.2	(現状説明) ことにAO入試の募集方法について、AO入試実行小委員会および入試検討委員会において実施時期の再検討を行った。また、選抜に用いる提出書類あるいはその採点方法（配点など）について継続的に検討を行っている。																
★	小項目5.0.3	(現状説明) 2008年度から2010年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、以下のとおりであり、問題なく推移しているといえる。しかしながら、他学部に比して定員が小さいため、管理については引き続き注意を払う必要もあると認識している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>定員数</th> <th>在籍者数</th> <th>在籍学生数比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2008年度</td> <td>120名</td> <td>131名</td> <td>1.09</td> </tr> <tr> <td>2009年度</td> <td>120名</td> <td>140名</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>120名</td> <td>136名</td> <td>1.13</td> </tr> </tbody> </table>	年度	定員数	在籍者数	在籍学生数比率	2008年度	120名	131名	1.09	2009年度	120名	140名	1.17	2010年度	120名	136名	1.13
年度	定員数	在籍者数	在籍学生数比率															
2008年度	120名	131名	1.09															
2009年度	120名	140名	1.17															
2010年度	120名	136名	1.13															
★	小項目5.0.4	(現状説明) 検証の仕組みについては、入試検討委員会（学部）において適宜懇談している。学部全体のアドミッション・ポリシーおよび個別入試制度で募集する入学像を明確にした上で、さらに具体的な検討に入る予定である。																
★	その他																	

《特定6項目データ》

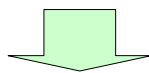
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	56.7%	62.9%	56.7%	72.2%	56.0%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数		→	→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
指標2	志願者総数	人	171	165	367	209	348	
指標3	志願者倍率	倍	5.7	5.5	12.2	7.0	11.6	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	%	—	—	—	—	—	近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目5.0.1	
	小項目5.0.2	
★	小項目5.0.3	
	小項目5.0.4	
	その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目5.0.1	
	小項目5.0.2	
★	小項目5.0.3	
	小項目5.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	学内ジョイント・ディグリー制度を利用しての4年次編入学生を受け入れるための仕組みをつくるために、まずは土台となる複数分野専攻制 (MDS) について科目編成の見直しが必要である。

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	学内ジョイント・ディグリー制度を利用しての4年次編入学を見据えながら、複数分野専攻制 (MDS) への登録学生が、効果的に該当科目の単位を取得することができる制度の構築を目指す。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○神学部は少数精鋭ということもあり量的目標については、きわめて安定しているの、むしろ質的目標について何を具体的に進めたいのかを明確にすることが期待されます。

・多様性の充実を求めているように推察されますが、そのための施策が消極的な印象を受けています。

【学内委員】

○目標にもかかげられアドミッション・ポリシーを明文化されようとしています。今後の基本となるものですので十分な検討を通して、着実且つ出来るだけ早急な策定を望みます。

○小項目5.0.2については、もう少し現状について説明をお願いします。

○小項目5.0.3については、特定6項目データを使用してもう少し説明を加えてください。志願者総数の動向などについて説明をお願いしたいと思います。

○検証は、受け入れ方針に沿った学生を確保できたかどうか、という検証でもあります。なかなか測定は困難で短期で出来るものでもありませんが、測定方法を確立され、長期的、計画的な検証を期待します。

○小項目5.0.1については、着実な進展を期待します。

○編入学試験において募集人員を「若干名」としている場合、定員充足しているにも関わらず多くの学生を受け入れている場合は助言の対象となる可能性がありますので注意してください。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「4. 学生の受け入れ ③学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である」「同、④学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である」については、それぞれ助言や勧告の対象値が示されています。絶えず確認し遺漏のないようにお願いします。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目5.0.2の現状説明について、2011年度(2010年度実施)AO入試より、他の各種入試(ことにスポーツ選抜入試)とのポリシーの違いを明らかにし、よりAO入試に相応しい受験者を確保できるよう募集時期などの調整を図った。

☆ 小項目5.0.3の現状説明について、過去5年間の全入学者に占める一般入試入学者比率はおおむね60%で推移している(特定6項目データ指標1)。これについては現段階において適切であると評価しているが、AO入試による入学者数にも照らし継続的に検討を要する。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保－入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
